

渡辺 伸子 (人間総合科学研究科 博士後期課程
心理学専攻 1年)

実は危ない大学周辺

これを読んでいるあなたは、いま、どこに住んでいるでしょうか。宿舎？それとも、普通のアパート？自宅から通っているという人も最近が増えていますが、まだまだ宿舎暮らしやアパート暮らしが、学生のスタンダードだと思います。

アパート暮らしをしている人は、多くが天久保地区や春日地区に住んでいると思います。なんとといっても、大学に近い。忙しい大学生には最高の場所だと思います。おまけに、つくばは家賃もリーズナブルですしね。

しかし、天久保や春日は、つくば市で起こる犯罪の多くが起こっている場所なのです。茨城県警のHPによると、つくば市は茨城県の中でも犯罪の多い地域です。そして、つくば市の中でも、天久保と春日は犯罪の多い地域となっています。つまり、天久保や春日は、非常に治安の悪い地域なのです。実際、道端で女性が体を触られる事件や、空き巣、自転車盗難などの事件が頻繁に起こっています。

びっくり！つくばの一人暮らし

個人的な話で恐縮ですが、私は筑波大学の出身ではなく、大学時代は東京に住んでいました。大学院に入学し、つくば市に引っ越してきた日に最初に思ったのは、「道が暗くてこわい！」でした。

筑波大学の多くの学生が、はじめて親元を離れて住むのが、天久保や春日です。最初からつくばだから、あまり違和感はないのかもしれませんが、他の所に住んだことのある私からすると、びっくりするようなことがたくさんあります。遅い時間にジョギングをしている女子学生、夜中に大学から家へ帰る学生、暗い道を平気で歩く学生…。夜、暗くなってからの時間は、東京でだって危ないのです。それなのに、暗いつくばでほいほい出歩いているなんて…。自分から、「どうぞ犯罪に巻き込んでください」とアピールしているも同然ではないでしょうか。「他の人もしているから大丈夫」なんていうのは言い訳になりません。他の人たちは、たまたま犯罪に遭わなかっただけです。あなたが犯罪に遭わない保障にはなりません。

誰も守ってくれない

ところで、犯罪タウンである大学周辺地域ですが、同時に一戸建て過疎地域でもあります。一戸建てがあまりないということは、自治会のパワーがあまりないということです。自治会というのは、街灯の管理をしたり、防犯パトロールをしたり、地域の清掃活動をしたりする地域密着型のボランティア的組織

です。自治会が弱いということは、天久保や春日では、そういった活動が行われていないということです。つまり、自治会で地域の防犯活動をしてもらえる可能性が非常に低いのです。

では、このまま、犯罪に怯えながら学生生活を終えるしかないのか？そう考えたとき、わたしは「そんなのいやだ！」と思いました。自分も犯罪には遭いたくないし、友だちや、友だちの友だちにも、犯罪に遭ってほしくありません。そうして、「アマクボ・カスガ平和にし隊」を作ろうと決意したのです。

自分たちの安全は、自分たちの手で

「アマクボ・カスガ 平和にし隊」には現在、10人ほどのメンバーが集っています。週に1度、4～5人で、つくば市から給付された蛍光グリーンの防犯ベストを着て、天久保と春日の見回りをしています。1回の活動は40分程度です。道行く人にあいさつをしながら歩いているので、見かけたらぜひあいさつを返してくださいね。

見回ってあいさつをするだけで、犯罪を防ぐことができるのかと疑問に思う人もいると思います。実は、あるんです。犯罪者というのは、事前に下見をするものなんでしょう。下見の時に、「こんにちは」なんて顔を見て声をかけられたら、見つかるんじゃないかと怖くなってしまって、犯罪をする気なくなるのさそうです。

まだ活動が始まって2ヵ月ほどなので、体感治安は変わらないと思います。でも、小さなことでもできることから、と思い、みんなで活動を続けています。集まっているメンバーは、院生もいれば学類生もいます。雑談をしながら歩くのは、心身の健康にもよさそうです。自分の健康によさそうな上に、人のためにもなる活動。やってみようかな、と思った人は、気軽にメールをください。メールアドレスは、s1130336@u.tsukuba.ac.jpです。

